

「木場の窓から見えるもの(元外交官の視点)」

当社顧問石井正文氏(前駐インドネシア日本国大使)による
気になる海外情報を原則第2、第4木曜日に配信しています。

第60回:ガザを巡る状況;イラン(ヒズボラ)との関係

2023年11月9日配信

【ポイント】

- まず、イランは今回のハマスのイスラエル攻撃の「黒幕」なのかどうかだが、おそらく、能力的・心理的支援はあっただろうが、具体的攻撃の態様やタイミングは、イランにとっても驚きだったのではないだろうか。
- 第二に、今後イランとそのプロキシ(特にレバノンのヒズボラ)が本格的に紛争に介入し紛争がハマス⇄イスラエルから地域的に拡大するかどうかだが、可能性は低いのではないか。
- ただ、今後も、ハマスにも一定の連携配慮を示し、イスラエル軍の警戒を北に引き付けるため、イスラエルと全面対決に至らない範囲で、ヒズボラがイスラエル北部で限定的攻撃を行なう可能性は排除されない。
- 更に、イスラエルが予防的にイラン・ヒズボラを攻撃したり、偶発的衝突が拡大したり、イラン・ヒズボラによる限定攻撃が予想外の被害を起こしたりした場合には、状況は急変しうる。

【本文】

- 現在のガザを巡る紛争には種々の論点があるが、中でも、今後の情勢がどうなるかを巡っては、イラン(とその傀儡(プロキシ)(含むヒズボラ))がどれだけ本格的にこの紛争に参加するかが大きな分岐点・注目点になっている。以下、その点に絞って考察する。
- まず、イランは今回のハマスのイスラエル攻撃の「黒幕」なのかどうかだが、おそらく、能力的・心理的支援はあっただろうが、具体的攻撃の態様やタイミングは、イランにとっても驚きだったのではないだろうか。
- イランが、ハマスを能力的・心情的に支援してきたのは事実。それが無ければ、あれだけのロケット弾の蓄積は無理だっただろう。
 - ・なぜ、シーア派のイランが、スンニー派のハマスを支援するのか？
 - *「敵の敵は味方」との論理
 - * ホメイニ師のイスラム革命3大テーゼー
 - ①イスラム法学者による支配、
 - ②被抑圧者への支援⇒パレスチナ支援(ハマス)
 - ③ イスラム革命の普遍性(レバノンのヒズボラ)

- ・また、イランはサウジ・イスラエル国交樹立実現を嫌っており、イスラエル攻撃によりこれを頓挫させることに利益
 - * 米軍が撤退する代わりにGCC(湾岸協力理事会)にイスラエルを加えた安全保障体制を構築されると イランの域内の覇権を阻止される。
 - * イスラエルは、過去にイラクの原子炉(1908年)、シリアの核施設(2007年)を空爆で破壊しており、イランの核施設を空爆しないのは、主に距離的な問題と思われる。
 - * もしイスラエルがサウジと国交樹立すれば、サウジからイランの核施設攻撃が可能となる。イランの地下核施設攻撃に必要なバンカーバスターを搭載できるイスラエルの攻撃機はF-15。その航続距離はF 35に比べ短く約450km。サウジ東部からイランの核施設があるナタンズまでの距離は約800kmで、空中給油1回で行ける距離。テルアビブからだると1,600km)
- ・但し、イランは、具体的なイスラエル攻撃の態様やタイミングまでハマスの指示したとは思われない(米国によれば、イランにとっても今回のハマスの行動は驚き)。

■第二に、今後イランとそのプロキシ(特にレバノンのヒズボラ)が本格的に紛争に介入し紛争がハマスの
⇨イスラエルから地域的に拡大するかどうかだが、可能性は低いのではないか。

- 但し、イスラエルが予防的にイラン・ヒズボラを攻撃したり、偶発的衝突が拡大したり、イラン・ヒズボラによる限定攻撃が予想外の被害を起こしたりした場合には、状況は急変しうる。
 - ・まず、本気でやる積りがあれば、10月7日の奇襲の直後から仕掛けるべきだが、その動きはなかった(ハマスの攻撃のタイミングはイランにとっても不意打ちだった面もある)。
 - ・ヒズボラはイランにとっては、唯一のイスラム革命輸出成功例で虎の子(ハマスに比べ能力的には数段上)であり、巻き込むのは慎重になるはず(ヒズボラが動けば、イランは無関係と主張できない面もある)。
 - ・そもそも、ヒズボラとハマスは目的や出自も異なる別組織で、連携の過去も無い。

- 一方、イランは、ハマスに何らかの心情的サポートを示す必要性は感じているはず。
 - ・その意味では、別のプロキシであるイエメンのホーシー派がイスラエルに巡航ミサイルを撃ったのは、イランの差し金であり、「狡猾」な対応
 - * 命中しても、撃墜されても、イランのハマスへの支援を示すことができた。
 - * 米軍が撃墜し、それを公表したのは、イランとしては、大変有難い話(支援のレジスターができた+イスラエルとの衝突を避けられた)
 - ・また、今後も、ハマスにも一定の連携配慮を示し、イスラエル軍の警戒を北に引き付けるため、イスラエルと全面对決に至らない範囲で、ヒズボラがイスラエル北部で限定的攻撃を行なう可能性は排除されない。

- イランがプロキシを使い、イラクの米軍基地に限定攻撃を行ったのに対し、米国はシリアにあるイラン関係基地に報復攻撃を行い、イランに対しパレスチナ情勢に介入しないよう強く釘を刺した。
 - ・ 極めて穿った見方をすれば、これはイランがハマスに対し、これ以上の肩入れは米国との衝突を惹起する可能性があるため、できませんと伝えるメッセージかもしれない。
- いずれにしても、ヒズボラ(イラン)にとって、ハマス・イスラエル戦争はイスラエルの戦術を子細に観察する絶好の機会であり、ヒズボラ(イラン)はじっと情報収集に努め、ヒズボラの戦力強化に活用するだろう。
 - ・ イスラエルは戦術を駆使し、全力を挙げてハマスせん滅を目指すであろうから、これ以上の観戦機会はない。

(以上)

りそな総合研究所 顧問 石井正文